

# 協働事業報告書

様式 10 号

事業の名称	西宮動物管理センター譲渡事業への協力事業		
団体名・氏名	特定非営利活動法人ベッツ・フォー ー・ライフ・ジャパン・遠見 公雄	関係課(G)名	生活環境グループ
事業費	278,000 円	市の負担額	100,000 円

事業 の 目 的 及 び 内 容	(目的) 譲渡候補動物に社会化と基礎訓練を行うことで、譲渡しやすい動物にし、また、譲渡後の家庭での問題発生を未然に防ぐ。人と動物の共生できる社会づくりへの貢献。	
	(内容) 西宮動物管理センターが譲渡に適する資質と判断した犬・ねこを預かり、社会化訓練とハウストレーニングなどの基礎訓練を行う。	
	(市民活動団体等の役割) 譲渡候補動物が家庭のペットとしての資質を備えているかアセスメントを行う。譲渡に適していると判断した犬・ねこに社会化訓練と基礎訓練を行う。	(市の役割) 動物管理センターに収容された動物の内、譲渡候補動物と判断した犬猫を紹介、情報提供。また市民に対する譲渡事業の広報活動。

	市民活動団体等	市
協働事業の成果・効果	3 頭の譲渡候補犬に社会化訓練とハウストレーニング等の基礎訓練を行い、初めての人でも飼いやすい状態に訓練したことで、良い家庭に引き取られました。また、新しい飼い主に飼育方法などの指導を行う事で譲渡後の問題発生がありませんでした。 2 頭の譲渡候補犬は家庭犬としての資質アセスメントで、一般の飼主には難しい性格と判断しました。困難な性格の犬が一般家庭に譲渡される問題を未然に防ぐ事が出来ました。	3 頭の譲渡候補犬にトレーニングしてもらうことで、トイレのしつけ等の改善により飼いやすい状態となり、譲渡希望者にもらい易い犬となった。また譲渡後も問題発生はなかった。 活動団体に預けることにより、犬同士遊ぶ機会が増え、犬自体もストレスが軽減された。団体には、犬の飼い主等が訪問することが多いため、犬が多くの人目に触れ、譲渡の機会が増した。
課題	西宮市動物管理センター並びにシェルターからの譲渡動物は飼いやすい・信頼できるという社会通念を定着させ、譲渡希望者を増やし、動物の殺処分数を減らすために、今後も引き続き、質の高い、慎重な譲渡事業を行う必要がある。	動物管理センターの収容動物の殺処分数を減らすためには、譲渡希望者を増やす必要があり、そのためにはトレーニングにより飼いやすい状態の動物を増やす必要がある。

注 1 事業実施が確認できる資料（写真、新聞記事、作成したチラシ、パンフレット等）を添付してください。

注 2 事業の成果・効果欄には来場者数、実施日数等の数値に表れる実績の記載をお願いします。

注 3 印の箇所は関係課(G)で記入します。

## 自 己 評 価 書 (生活環境グループ)

事業の名称	西宮動物管理センター譲渡事業への協力事業	
団体名・氏名 関係課(G)	特定非営利活動法人ペット・フォー・ライフ・ジャパン・邊見 公雄 生活環境グループ	
自己評価欄（該当する選択肢に をつけてください。）		
1．計画どおりに 実施できたか	① できた	主な理由（左記で3,4を回答した場合に記入）
	2．概ねできた  3．あまりできなかった  4．ほとんどできなかった	
2．事業実施により 期待した成果を 上げることができ たか	1．期待どおり	主な理由（左記で3,4を回答した場合に記入）
	② 概ね期待どおり  3．あまりなかった  4．ほとんどなかった	
3．協働で事業実 施した効果はあっ たか	① 非常にあった	主な理由  動物管理センターでトイレ等の問題により長期間譲渡されずに保管されていた犬が、訓練によって改善が見られ、新たな飼い主へ譲渡された。譲渡後も飼い主から飼い方に苦慮している等の問題はなかった。
	2．あった  3．あまりなかった  4．ほとんどなかった	
4．その他、評価すべき点、反省すべき点	<p>放棄された動物の環境の変化によるストレスを最小限に軽減するために、放棄から訓練開始の期間を最小限にすることが望ましい。そのために動物管理センターに収容された後、早急にペットフォーライフジャパンへ紹介し、資質のアセスメントを行ってもらうようにする。</p> <p>また今回の事業により、実際に長期間保管されていた犬が譲渡され、譲渡後も問題発生なく譲渡事業が行うことができたため、引き続きペットフォーライフジャパンと譲渡事業を協働で行っていくこととした。</p>	

# 自己評価書

(特定非営利活動法人ペット・フォー・ライフ・ジャパン)

事業の名称	西宮動物管理センター譲渡事業への協力事業	
団体名・氏名 関係課(G)	特定非営利活動法人ペット・フォー・ライフ・ジャパン・邊見 公雄 生活環境グループ	
自己評価欄（該当する選択肢に をつけてください。）		
1. 計画どおりに 実施できたか	① できた	主な理由（左記で3, 4を回答した場合に記入）
	2. 概ねできた  3. あまりできなかった  4. ほとんどできなかった	
2. 事業実施によ り期待した成果を 上げることができ たか	1. 期待どおり	主な理由（左記で3, 4を回答した場合に記入）
	② 概ね期待どおり  3. あまりなかった  4. ほとんどなかった	
3. 協働で事業実 施した効果はあっ たか	① 非常にあった	主な理由  訓練前は飼い主さんを見つけることが困難であ った動物が、訓練により飼いやすくなったこと で、譲渡された。  新しい家族も、適切な飼い方指導を受けること で、動物を安心して迎え入れる事が出来ました。
	2. あった  3. あまりなかった  4. ほとんどなかった	
4. その他、評価 すべき点、反省す べき点	放棄された動物の環境の変化によるストレスを最小限に軽減するために、放棄 から訓練開始の期間を最小限にするなど、ストレスフリーな状態に近づけてい くことで、より多くの成果を上げることができる。協働事業開始2年目以降は 西宮市動物管理センターとPFLJの連絡をより密にし、訓練開始までの期間 の短縮化に努める。	